

現在、全国的な傾向として担い手不足、後継者不足等による有給荒廃地の拡大が止まらない状況にある。

松本市においても同じ状況にあり、圃場整備を行った水田も山林と化している現状にある。

農業の魅力を高めどう利益を生み出すかが最大の課題であるが、農地の集約（中間管理機構、円滑化事業）、農業者の法人化などの政策がまだ行き渡っていないのではないか、関心を持たずに荒廃地になっているのではないかと、など多くの意見があるところである。

そこで、農業法人としてモデル的な取り組みをしている恵庭市「えこりん村」を視察先に選んだ。

目的

北海道の広大な農地の確保のできるところと、当市の農業は直接結びつくものではないし、懸命に努力をされている農家の方々に、改まって直接意見することなどできようもないが。しかし見聞きしたものの一端を、地域の農業者との懇談の機会にお話することができたら、荒廃地の減少に効果が上がるのではないかと、取り組んでいる内容などが参考になりはしないかとの思いを持った。

内容

総支配人の稲田様から園内を見て歩きながら講義をしていただいた。

彼はオーストラリアのコアラ公園の園長をしていたとのことですが、「えこりん村」の開設にあたって、経営母体であるレストランなどを経営する「びっくりドンキー」から熱烈な誘いがあり開設時から関わっているとのことであった。

人に良いものを提供したいという思いからこの事業に着手したとのことであった。

名称については「エコ輪」エコロジーサイクルを目指しての名称である。

ここ「えこりん村」は総面積150ヘクタールでこの中に牧場、採草地、山林、水田、畑、バラ農園、野菜ガーデン、趣向の違う様々な庭園、レストラン、売店、トラクタートレイン、などを備え年間50万人の観光客を集めている。

バラ農園では食べられるバラを4千株栽培してバラを使った様々な製品を販売、水田では無農薬栽培とともにビオトープ化して、子供たちの遊びと学びの場となっている。

牛、馬、アルパカ、豚、羊を飼育、特に羊牧場は日本一とのことで、1,200～1,500頭、ニュージーランド農法で牧草のみで飼育、豚は雪の中でも放牧で輸入飼料は使わず農場の見学にはトラクターのけん引するトレーラーで放牧家畜を見学し羊への餌やり体験でき、人気のコースになっている。

花の生い茂る農園は歩いて散策、園内での牧羊犬ショー、レストランでベジタブル料理を堪能でき、子供連れで楽しめる農業公園となっている。

生ごみ、糞尿を処理して堆肥肥料として活用、協力農場22か所に有機栽培のために提供し安全な食材を系列レストランで使用。米についても同様の取り組みをしている。廃食用油

は自社のBDF製造装置で燃料化し、バイオガスプラントで発電もしている。
道内各所に施設があり壮大なプロジェクト化している。
平成22年には経済産業省、農林水産省より表彰されている。